

国語部会

金田 一 清子

国語の真の学力とは：を常に問いつつ 現場の悩みに応える部会に

「すごい！一年生とは思えない発言の数々。どうして？」その秘密を聞いてみると、「子どもの疑問を取り上げ全体に投げかけたことで、子どもたちの発言が多くなり読み深めることができたのです。」

教材分析から授業作りまで部会で皆さんと一緒に学べたお陰です」と若い実践報告者。一年生のうちから、文学を楽しむ経験が大切であると実感できた部会の一コマでした。

ところが、今「アクティブ・ラーニング」という言葉が飛び交う中、これで国語の本物の学力がつくのだろうかと疑問が続出。型にはめた授業方法を一方的に押しつけるのではなく、目の前の子ども達から出発した創造的な国語の授業こそが今こそとめられているのではないのでしょうか。

そんな中、部会では「本物の国語の学

力とは：」と題して「全国学力テストの

分析・批判」（どういう学力を測るテストになっっているか）を本多さんに提案してもらいました。特に印象に残った点をあげてみると：。情報を読み取る問題ばかりのA問題。切り貼り（コピー）能力の要求。文学の読みの問題さえ、自分がどう読んだかなど関係ない。自分の問いや考えなどは許されず、与えられた課題についてだけ考えることが要求される。等、今更ながら、このようなテストで学力が高いとか低いとかを決めつけられる子ども達、振り回される現場。

「こんなテストが、何の役に立つの？」と現場の嘆きの声が聞こえてきそうです。と同時にもつと沢山の人にこの実態を知ってほしいと思えました。現場の参加者の感想を紹介します。

「本多先生は学力テストの設問、一つ一つを解説しながら、全体としてこのテ

ストがどんな学力を測るテストなのかを端的に解き明かしてくださいました。中でも私は（国語A③委員会紹介パンフの問題）は、問を見てから問題文を読むことが近道であり、問題文を読む必要さえないような問になっていることを知り、驚きました。

こんなテストの結果の数値で現場が惑わされ萎縮させられてしまわないようにしていきたいと思えました。本多先生は、私たちの教研活動の中で、このテストがどういう国語学力観、国語科学力構造論に基づいて作られているかということとを批判的に検討していくことが大切であると教えてくださいました」

今後の国語部会では、秋の都教研の国語分科会で感動的な実践報告をしたレポートターの皆さんを招きたいと思えます（若い人もいっぱいでした）。現場に根を張り、目の前の子ども達とすばらしい実践をくり広げており、頼もしい限りです。若い人や現場の悩みに応える部会に行きたいと思えます。

ぜひ、ご参加ください。（共同研究者）